



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第367号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

新年あけましておめでとうございます マヘル神父

2018年は今までで皆様にとって一番良い年となりますように祈ります。

全世界の状態を考えますと、テロや争い戦争など不安定で心配な状態に心を痛めることが多いようです。しかし、日本は世界に比べ良い状態であることに目を留め感謝しましょう。二年前に「自分に対してより真実になる」について記載しましたが、共同体として個人としてもう一度考えてみるといいと思います。「自分に対して、より真実になること」(自己実現)の事について考えたいと思います。祈っている人が、聖霊の働きの為、一層人間らしくなることは、この祈りの副作用とも言えましょう。神のみ前に在って、神の臨在のもとに自分を偽ってはいけない事を学びます。社交的なしきたりと言う仮面の裏に秘められている自分自身の本当の姿を、そのポーズとうぬぼれ、大きいなりの欺瞞(うその事)を見破ることが出来ます。考えや言葉や行いのわざとらしさや間違った態度や、本物でない「我」を後に残して、益々誠実な本物の自分自身となります。臨在される神のみ前に生きていければいるほど、本当の「自分」が現れてきます。神に対して正直になったが故に自分自身に対しても正直になるにつれて、廻りの者に対しても、それだけ正直になります。(それは物事の真相を調

べる時、情報を評価する時も、客観的な現実をより良く把握できるようになります。)無論、この祈りによって、周りの人々に対しても益々正直になりましょう。心から心へと言う本物の対人関係を結ぶ力も増えます。本当の愛、即ち人の身になってものを考え、事情を把握し、人の要求を受け入れると言う愛は、必ず本物の祈り、つまり神に対しても心を開き正直であって、自分自身に対しても正直であると言う本物の祈りと言えます。「神を知っていると云いながら、なお兄弟を憎む者は偽りである。」と書いたヨハネの言葉は、正にその通りです。

あゝ幸い 主と共に歩む人

あゝ幸い 生きる秘訣を心得た人

あゝ幸い 報いを求めようとしない人

あゝ幸い 与えるのが趣味だから与える人

あゝ幸い 金銀を貧らず利得を望まない人

あゝ幸い 金銀宝石の虚しさを知る人

あゝ幸い 人から賛美栄誉のいらぬ人

エルサレムは永遠の都だが・・・2・3面
 小教区委員会・幼稚園より・・・4面
 世界三大宗教を知る・・・5面
 外国から二人の仲間・・・6面
 ベリオン神父様の説教・・・6・7面
 お知らせ・教会学校・・・8面

あゝ幸い 自分に忠実な人
 あゝ幸い 祈りの奥義を極めた人
 あゝ幸い 高尚な理想に心を燃やす人
 あゝ幸い 無償で仕える人
 あゝ幸い 己が命を見出した人
 あゝ幸い 主の人
 Sebastian Temple「仕合せな人の歌」より

2017年の教区からのテーマ「慈しみから踏み出す第一歩」を振り返りクリスチャンとしての平均を取れて人間らしい生活を送る為には、「魂の癒し」を求めて愛の内に落ち着く事は不可欠の「行事」だと思われます。今年も聖霊の導きで共に祈りながら過ごしましょう。皆さん今年も宜しくお祈りします。

エルサレムは永遠の都だが

—「エルサレムはイエスラエルの首都」発言は—

3～4年前、当教会内で「イスラエルを考える青年の集い」と題して、(但し、この素晴らしいタイトルと、どのようにして実施されたのかには注目に値しないのですが)、当時の青年会長さんを中心に対話を行い、他に3名ほどの参集も得て、基本的には三谷が話題提供を行っていた時期がありました。(旧約時代と現代課題を交互に行いたかったのですが)、結局ここでは、パレスチナ問題、イスラエル人とパレスチナ人が、広い意味のパレスチナ領域(現在のイスラエル領を含む)において、共存するに至った問題、特に、イスラエル側に蹂躪され続ける、パレスチナ人の人権問題を扱いました。特に、パレスチナ人の居住権が脅かされていることは最たるものでした。

それに先立ち、次のことを学びました。歴史を辿れば、前世期から今世紀にかけて、弱体化したが広大ではあったオスマン・トルコ領(広義のパレスチナ地方含む)の崩壊後の

処理、これを植民地管理には手慣れた英仏が担ったのです。そこで、互いに相矛盾する、次の様な動きや、口先の約束がなされました。①英仏による分割の秘密協議、②アラブ側(サウジアラビアにあるメッカの太守)にパレスチナ領土を約束、③ユダヤ人側にはイスラエル建国の約束。特に、この第2と第3の同時の約束は「2枚舌外交」と言われ、現在に至る大問題を引き起こしています。

結局、欧米のキリスト教国家内の動きは、イスラエル建国を最も有力に支持し、第2次世界大戦後にイスラエル国が建国。しかし、その折にも、パレスチナ領の配慮がなされたのですが、(後、イスラエルによる同領への侵攻と、国連による撤退決議がくり返されるも)結局、イスラエルによる実行支配が、パレスチナ領に及んでいます。

1987年5月、私、三谷は、イスラエルに会議出張で行きましたが、そもそもその会議が、盛りだくさんな聖地・イスラエル旅行

を企画してくれて、喜びもひとしおでした。その折、イスラエルは建国40周年、エルサレムの(パレスチナ領の領分が縮小された形)となって20年の、喜びに満ちていた時でした。私もその喜びを同感したのですが、今となっては、恥ずかしい話だったと思います。パレスチナ人の怒りが封じ込められていた時期、単に反抗していない時期だったのです。

私の旅行から半年後、市民の蜂起(中には石を投げる程度の反抗ですが)である“インティファダー”が始まりました。・・・ということは、私の旅行時期は、治安の点で問題ない幸運な時期だったということでした。

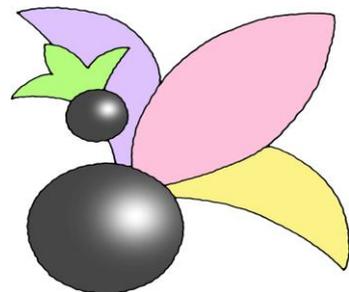
その後、米国大統領クリントン氏の仲介でオスロ合意がなされ、多少の和平の前進を見ましたが、和平とその崩壊は一進一退、2000年、第2次インティファダーが始まりました。その後の、パレスチナ自治政府のアラファト議長時代の、ガザ地区の、イスラエルによる空爆のニュース、映像を見るに、あれだけの小さな地域がよく完全廃墟とならず、まだまだ人が住んでいることが不思議なくらいでした。すなわち、私達の信じるキリスト教はユダヤの民族から発生したものであるが、今、ユダヤ側の行いを、平和を愛するイエス様が見たとしたら、よしとはしないと思うのです。

このたび、米国トランプ大統領が、エルサレムはイスラエルの首都であると発言しました。永遠の都エルサレム、これを私達は、ユダヤ教～キリスト教と受け継がれたモチーフとして語って当然のことです。しかし、そこには2000年以上、住んできた非ユダヤ人(パレスチナ人)が暮らしています。

パレスチナ政府のアッバス議長は、12月6日「(イスラエルのエルサレムが首都とされるなら)和平プロセスを崩壊させる危険な決定だ。首都である東エルサレムなしにパレスチナ国家はあり得ない」と語ったそうです。12月7日には、ヨルダン川西岸地区で1千人以上が抗議。米国旗を燃やしつつ「エルサレムはパレスチナの永遠の首都だ。イスラエルとの平和交渉はこれで終わりだ」と叫びの声を上げたそうです。すなわちエルサレムはユダヤ人側にとっても永遠の都ですが、パレスチナ人側にとっても永遠の都なのです。不安定なブロックを積み上げた様な、かろうじて達成された和平が、崩される気配となりました。先ほどテレビ対談で聞いた「たとえトランプ大統領が去っても後世に残る大損害だ」という説が杞憂であってほしいのですが。

私が子供時代、中東戦争のニュース、特にイスラエルのシナイ半島までの占領を聞いて、「教会に通うキリスト教徒として喜ぶべきことだ。やはりイスラエルは強い。」と熱狂したものです。しかし新約の教えは？、イエス様が現代のイスラエルの侵攻と他者の蹂躪を見て、どう思うか？それは別の結論に導かれるのであり、同時に(宗教を抜きにした)現代社会の人権尊重と多文化の共生という点でも考察されている事です。

(広報委員 三谷尚)



委員会等報告

2017年12月分

12月度小教区委員会 12月3日

1. 行事予定

1/1(月) 深夜ミサ 0:00~

元旦ミサ 10:00~

成人のお祝い、車の祝別、新年茶話会

1/14(日) 小教区委員会

1/20(土) 役員会 10:00~

1/21(日) 臨時納骨堂利用者集会

納骨堂管理規約 改訂案説明

2. 議事

(1) 予算について

維持費の他に営繕積立を始めるという考え方もあったが、一定金額を個人の事情に寄らず一律に集めるより、任意の献金という形で維持費に上乗せして納めていただく方がいいとのマヘル神父の意向により、維持費増額への協力を呼びかけてきた経緯がある。

その経緯を踏まえ、一定額を営繕献金に繰り入れていくこととする。また、各年度の営繕については、別途予算化する。

営繕献金への繰入額は、収入(ミサ献金+維持費)の10%相当額とする。また来年度の営繕費用として30万円を予算化する。

その他の費目については、例年通りの考えに基づき、策定する。1月26日までに教区に提出する。

(2) 納骨堂管理規約の改定について

納骨堂管理規約の改定案を策定した。1月に臨時納骨堂管理者集会を開催し説明、提案していく。信徒全体に対しては、地区集会を通じて周知を図っていく。

なお、営繕献金については 納骨堂献金(営繕積立)と特別営繕献金(旧駐車場献金)が併存している。いずれも営繕を目的とした献金であることから、1つに統合することを提案する。

納骨堂管理費については納骨堂の維持・管理を目的とするものであることから、別に管理していくこととする。

(3) その他

四旬節の手紙を配布する際に、教会に来られない方には別途、維持費振込用紙を同封し、郵送する。振込用紙不要の方について、お名前の届け出をお願いします。



水巻聖母幼稚園から1月のお知らせ

ご降誕と新年 おめでとうございます!

いつも水巻聖母幼稚園へのお祈り・ご協力ありがとうございます

☆「みんななかよく」(ビニール凧を作ろう!)

日時 1月11日(木) 10時30分~12時 幼稚園ホール

入園前の小さなお子さまも遊びにきてください!

園長 Sr 松川明子・職員一同

(世界三大宗教を知る) 仏教(2) どのように信仰しているのか

インド、ネパールの仏教は一度消滅したのですが、信仰の芽は残っていました。七世紀半ばインドの高僧リンポチェがブータンへ仏教を伝えました。その後グル・リンポチェはチベットへ渡り仏教を伝えました。これが現在のチベット仏教です。

早くにインドから中国、朝鮮半島、日本、スリランカに伝わった仏教を「前期大乘仏教」と呼び、遅れて伝わったチベット仏教を「後期大乘仏教」と言います。

チベットとブータンで発展したチベット仏教は400年前ごろ、ヒマラヤを越えてネパール北部に移住した人々によってネパールに再び伝わりました。ネパールはほとんどの地域がヒンズー教ですが、山岳地帯の少数民族、例えばシェルバ族、グルン族などは仏教徒です。

そのためヒマラヤ山麓や山中には多くの仏教寺院があり、村落間の道沿いには沢山の仏塔や経文が書いてあるマニ石という信仰の対象物が道の真ん中に置いてあります。

ヒマラヤの写真を見るといろいろな所に旗がかけられているのを見たことがあると思いますが、これは「タルチョ」と言います。旗には中心に釈迦の姿そのまわりは仏教の真言が印刷されているものです。風に乗せて真言が空に飛んでいくようにと、峠や家の屋根、お寺の周辺にかけています。五色の旗の色は空・風・火・水・地を表しています。

東に伝わった「上部座仏教」は独自の発展をしました。私が見たタイやミャンマーでは仏塔を中心に信仰が保たれているように見られました。仏塔とは本来中に釈迦の骨が入っている建造物で中には入れません。仏塔は

お寺ではありません。お寺は別にあります。

九州では門司港の山の上にある仏塔はミャンマーの僧侶が滞在して守られています。

ミャンマーには沢山の仏塔があります。特にヤンゴンのシェンダゴン・バヤーは巨大な仏塔で有名です。全体に五トンの金が張り付けてあるそうで、金色に輝いています。塔の上部には豪華な宝石の飾りが乗っています。仏塔の周りには多くの仏像があり、みなさんはこの仏像へお参りしています。ミャンマー中部のバゴンには見渡す限り数千の仏塔があります。

上部座仏教では毎朝、僧侶は托鉢に行きます。町の人々は僧侶へ食事を寄進することで徳を積むのです。バゴンで二千人の若い僧侶が勉強している学校を見学しましたが、その日の食事を寄進した金持ちが大きな釜から僧侶1人ひとりの鉢にご飯をついでいました。全ての食事を托鉢や寄進された食べ物で済ませています。1日早朝と昼の2食です。

スリランカでは世界遺産になっている遺跡が沢山ありますが、毎月満月の日は国中が休みになっています。満月の夜は仏塔やお寺へ沢山の人がお参りに行っています。

中国や朝鮮では儒教の関係なのか仏教があまり見えません。近代の中国は共産主義国ですから宗教は弾圧される存在です。韓国には日本のように沢山の寺院はありません。その代わりに10か所の大寺院が有名です。その内のいくつかに行きましたが、参道から本堂までとても長い道を歩く広くて大きなお寺ばかりでした。全てが文化財として保護されているようでした。

—つづく— (広報 岩本)



外国から2人の仲間(若手)が

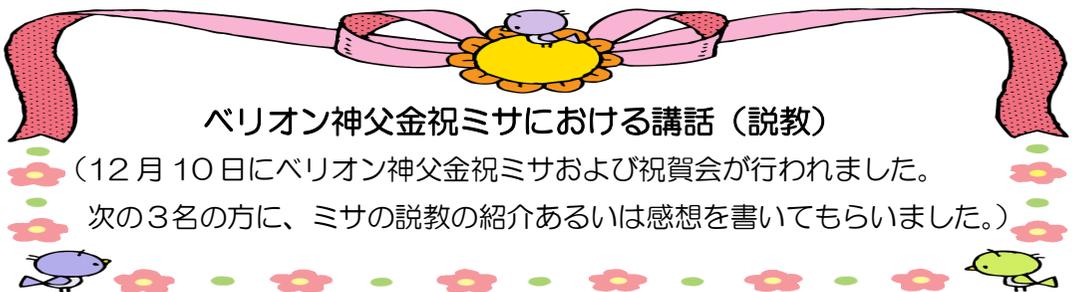
水巻教会に明るい知らせが!

直前までアメリカにいらっしゃったことで共通する2人の若い仲間が、お見えになりました。さらに、その友達もまたいらっしゃるようですが、それは次の機会とさせて頂き、まずは、この御二人を紹介しましょう。

男性の Alexander Suryandono さん(読み方に自信はありませんが、アレクサンダー・スルヤンドノ、簡潔に“Alex”=アレックスと呼んで頂きたいそうです)。聡明・快活なインドネシア人(この点でアリアントさんと同じ)の青年で、北九州大のひびきのキャンパスの大学院博士課程学生で、建築を学ばれているようです。これまでは米国の大学に修士課程学生として、在籍されていたそうです。

もう一方、こちらも聡明そうな女性の Natalie To (ナタリーさんと呼ぶので大丈夫の様です)、アメリカ、カリフォルニア州の出身で、秋季から、芦屋中学校の英語教師として勤務されています。

二人とも、早速、いろいろな教会活動に関わって貰っており、とても嬉しいものです。会ったときは英語がベースで、私達の英会話上達のチャンスと思っていましたが、お二人とも急速に日本語が上達されつつあります。残念!?(広報委員会)



ベリオン神父金祝ミサにおける講話(説教)

(12月10日にベリオン神父金祝ミサおよび祝賀会が行われました。

次の3名の方に、ミサの説教の紹介あるいは感想を書いてもらいました。)

“ゆるしの秘跡”について

ベリオン神父が子供の頃、告解は面倒くさいと思っていた。早く告解が終われば罪が許され、気持ちが楽になったと思っていた。実は告解はそれだけのものではなかった。

“ゆるしの秘跡”と言われるようになって50年位になるが、今でも“告解”と言われており、私達の理解と認識の違いによるものではないか?ということであった。許して下さる喜びと感謝に重点をおいた“ゆるしの秘跡”が望ましい。

イエスに対しての愛の告白が大切であり、罪深い女が涙でイエスの足を洗う聖書の箇所を聞いた。また神父が子供の頃、横にいた子犬を蹴った話を聞いた。突然蹴られて子犬は驚

いたはずだが、自分のしたことに泣き出した子供(神父)の涙をなめる話では'ゆるし'の場面が表れていたと感じた。

私達の間にも交わり・愛がなければ'ゆるす'ことではないと言われ、自分自身の信仰生活を見直す良い機会となった。
折尾地区 宗 恵



ベリオン神父様 金祝おめでとうございます。

共同改心式を済ませたばかりの直近で、神父様の力強い声と言葉が心の中に飛び込んできました。

「許された喜びを伴わない告白は意味がない」

確かにまだ私も若い頃、告解直後は清々しい気持ちになり新たな自分になれるという思いに溢れていました。

「告白をして信仰生活に変化がなく何もなかったように生き続ける事は許されない」

年齢を重ねるうちに言い訳だけはうまくなり、少しも自分を変えることができず、主イエスに向かう心も衰弱させ漫然と過ごしています。

御降誕を迎える今、良い節目として主への道を整えまっすぐに歩いていけるよう新たな自分になることを目指します。その為にベリオン神父様の説教集「そよ風に運ばれる種」をじっくりと読み直すところから始めたいと思います。
折尾地区 田中麗子



ベリオン神父様の説教を聞いて

ゆるしの秘蹟についてのお話を聞いて、今まで分かっているようでよく理解していなかった部分もあり、私にとっては正に福音でした。

告白は自分の罪を事細かく調べ、洗たくをする洗剤のようなものでない事。神様から許される喜びである事。神との和解と信仰告白でなければならない事。忘れた罪はどんな罪か？多く愛したものが多く愛されるという意味。人は被害者意識が強いので許された喜びを知らなければ人は許すことはたやすくはない事。同じ罪を繰り返すのはなぜか・・・等。たとえ話を聞いてわかりやすくユーモアを交えながらお話ししてくださいました。

信者、未信者にかかわらずたくさんの方々にこのお話を聞いてほしかったと思いました。またベリオン神父様のお話を聞ける機会があることを願ってやみません。

中間地区 川島幸子



1月のおしらせ

特別献金★

12月5日

宣教地召命促進の日献金 25,600円
ご協力、ありがとうございました。

★深夜ミサ・元旦ミサ★

12月31日(土)午後11時～

ホーリーアワー(祈りの時間)

1月1日(日)午前0時 深夜ミサ

午前10時 元旦ミサ

今回もこの日に、成人のお祝いと車の祝福式を行います。また、ミサ後に新年祝賀茶話会も行います。

★臨時納骨堂利用者集会★

日時：1月21日(日) ミサ後

納骨堂管理規約の改訂案の説明を行います。納骨堂を利用されている方は、参加をお願いします。

人ひと

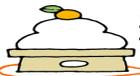
【帰天】安らかに！

11月22日

◇橋本 照子さん (芦屋地区)

【洗礼】おめでとう！

◇アグネス 板垣 杏さん
(折尾地区)



教会学校のページ



11月26日 出席者 山田蓮くん

マタイ 25 章 31 節～46 節を音読し「こじか」を読んで聖書に書かれてある意味を話し合いました。こじか林神父様(東京教区)の解説より最後の審判のお話だったので、天国行き？地獄行き？と神様の決断がどうなるかちょっと怖いような気がします。人間はしたこと、話したこと、時間がたったらすぐ忘れてしまうけど、神様は全部覚えていらっしゃる。どんな些細な意地悪も、どんな小さな良い行いも。大事なのはこれをすると天国行き？これをしたら地獄行き？なんて考えながらびくびくして生きるのではなく、人として「あたりまえのこと」をして生きていくことです。なぜなら神様は私たちを「よいもの」として作りこの世界に送ってくれたからです。

12月3日 出席者 山田蓮くん

毎年高齢者の方宛てに送っているクリスマスカードの準備をしました。蓮くんが手書きのカードを作成してくれました。

待降節に入り、今年もエッセイの木についての説明を皆さんにお知らせしています。礼拝前に、かわいい水巻教会の幼児のみんなが案内のお手伝いをしています。

昨年に続いてのご協力ありがとうございます。